

## 会派研修会実施報告書

会派研修の結果について、下記のとおり報告します。

令和5年3月13日

光市議会議長 木村信秀様

光市議会会派 かいこう

代表者 森戸 芳史


議員名 小林 隆司

議員名 早稲田真弓

### 記

- 1 研修日時 令和5年2月13日（月） 10:00～11:30
- 2 研修場所 光市地域づくり支援センター 1F会議室
- 3 研修内容 対人コミュニケーション～相談支援の実際～
- 4 研修結果 別紙のとおり

## 研修結果

日時	令和5年2月13日（月）10:00～11:30	
場所	光市地域づくり支援センター1F 会議室	
講師	コーチ・オンリーワン 代表 上野和禎（ウエノカズノブ）氏	
テーマ	対人コミュニケーション ～相談支援の実際～	

### <研修の背景および目的>

常日頃、議員として市民の皆様から相談を受けることや、議員間において政策実現にむけた意見交換を行うことがあります。このような相談の場面や議会運営等における対人コミュニケーションを効果的に行うため、コーチングや研修、カウンセリングなどの幅広い分野で活躍されている上野和禎氏をお招きし、研修会を開催しました。

### <研修概要>

上野氏自身の業務経験の講話から、それぞれの現場での相談支援の実情や、課題や対処法について見識を深めました。

#### 【地域包括支援センターの一員として】

1. 総合相談支援業務
2. 権利擁護業務（虐待対応など）
3. 介護予防ケアマネジメント業務
4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（ケアマネジャー支援など）



#### 《ポイント》

- ✓ 虐待を受けている人および虐待をしている人の双方にきめ細やかな支援が必要である。

#### 【成年後見人として】

成年後見人等の立場と基本的態度…家庭裁判所から選任される成年後見人等は本人の代理人として、付与された代理権・取消権の範囲で法律行為を行う。本人の意思を尊重し、身上に配慮しながら最善の利益を実現するため本人の立場を代弁し、自己実現を支援する。

- (1) 生活、療養看護（身上監護）…医療・介護・福祉サービス、住居の確保のほか生活の維持に関する事項（契約、申請手続き・処遇の監視、計画書等への同意など）
- (2) 財産管理…不動産（管理、売買、賃貸借等）、預貯金（管理、入出金等）、各種支払い（医療費、施設利用料、福祉サービス費、公共料金等）、遺産分割協議に関する事項等

### 《ポイント》

- ✓ 成年後見人は依頼者の意思決定を引き出すことが重要である
- ✓ 成年後見人の数が足りていないことに加え、支援レベルに個人差が生じている。

### 【スクールソーシャルワーカーとして】

スクールソーシャルワーカーの職務内容等…教育と福祉の両面に関して、専門的な知識・技術を有するとともに、過去に教育や福祉の分野において活動経験の実績がある者。

1. 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
2. 関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
3. 学校内におけるチーム体制の構築、支援
4. 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
5. 教職員等への研修活動 等

### 《ポイント》

- ✓ 山口県における令和4年度のスクールソーシャルワーカー配置人数は、県（子どもの親のサポートセンター）は4名、市町は45名である。
- ✓ スクールソーシャルワーカーは、スクールカウンセラーと緊密に連携し、課題解決に努めている。
- ✓ 相談を受ける際は、依頼者の関心事に関心を持つなどし、相互理解を深めることが何よりも重要である。

### 【企業等におけるコーチング】

・コーチングの目的…クライアントの持っている力（潜在能力）を最大化すること、また、クライアントが目標を達成すること。

### 《ポイント》

- ✓ 組織や職場における問題は、問題の性質上、上司や内部関係者に相談できないケースが見受けられる。こうした問題を解決するためには、職場の体質を変えるための体制づくり、また、そのためには何を実行したら良いかを常に考える習慣づくりが必要である。

### ■ 上野氏がこれまでの相談援助、コーチングに共通して大切にしていること

**環境** 相手にとって安心安全の空間である…秘密を洩らさない

**姿勢** 対等…誰もが人として対等

**技術** 傾聴…相手の考えや思いを知ることができる、相手のことを理解することができる（最後まで聴く、相づちとうなずき、オウム返しなど）

**共感** 相手にとって「分かってもらえている」という感覚

## ■質疑応答

Q. スクールソーシャルワーカーとして相談内容から見えることは？

A. コロナ禍で家族と接する時間が増えたことにより関わり方が難しくなっている。また、不登校の子どもは、休校になったことにより学校に行っていないという罪悪感が減り、安心感が高まっている。その一方、休校が続きさらに学校に行けなくなるケースも散見される。さらに不登校の理由が学校にあるとは限らない。

Q. 精神疾患の人から意志を引き出す方法は？

A. オープンクエスチョン（回答者の回答範囲に制限を持たせず、自由に答えてもらうために行う質問）ではなく、クローズクエスチョン（「Yes/No」という形での回答を求める質問）に心がけることが重要である。また、個人や周囲の人からの情報を収集し、本人にとって最適な環境を整備していくことが必要である。

### <所感と市政への反映>

どのような環境や場面においても、相手の話にしっかり耳を傾け、相手の心情を察し、言いたいことを理解することの大切さを再認識しました。また、傾聴にはコーチングをはじめ、技術も必要であることも理解できました。この研修を通じて学んだことを参考にし、市民の皆様の声を幅広く集約して市政に反映し、誰もが安心して暮らせるまちづくりをより一層推進していきます。